

地域公共交通検討会議におけるこれまでの議論～意見等の整理～

交通を取り巻く環境

交通環境の変化

- ・北海道新幹線の新函館北斗開業、札幌延伸の前倒し
- ・高速道路の整備進展
- ・LCCの新規就航
- ・国際航空路線の拡充
- ・新千歳空港の機能強化
- ・燃油価格の変動
- ・運転手等の担い手不足
など

社会環境の変化

- ・人口減少と高齢化
- ・都市部への人口集中
- ・外国人観光客の増加
- ・大規模自然災害リスクの高まり
など

現状・課題

鉄道

- JR北海道の厳しい経営状況
 - ・路線全体の3分の2が輸送密度2,000人未満
 - ・札幌圏も含めて道内全ての路線の収支が赤字
 - ・施設・建物の老朽化
(背景) ・安全投資の増大
 - ・経営安定基金の運用益の低下 など

バス

- 利用者の減少
- 都市間バス路線の増加
- 乗務員の高齢化、担い手不足

ハイヤー・タクシー

- 利用者の減少
- 都市部は供給過剰、過疎地では厳しい経営状況
- 乗務員の高齢化、担い手不足

航空

- 航空ネットワークの充実・強化に向けた空港経営改革の検討
- 新千歳空港の深夜・早朝時間帯の発着枠拡大に対応した空港アクセスの整備
- グランドハンドリング体制の強化
- 地方空港の国際線関連機能、施設の充実・向上
- 道内発旅行需要喚起

地域

- 人口減少と路線バスの利用者の減少
- 国鉄廃止代替バス路線の再編
- 地域の実情に応じたコミュニティバスの運行
- 医療圏や商業圏から離れた地域の中心都市との輸送手段の確保

主な意見

【鉄道】

- ▶さらなる情報開示が必要
- ▶JR北海道の状況を理解した上での議論が必要
- ▶路線の存廃は経営状況の善し悪しと切り離して必要性を議論すべき
- ▶会社設立時の国鉄分割民営化のスキームが機能していない。そういう厳しい状況を理解した上で、道民としては、JR北海道を支えていかなければならないということを確認すべき。

【交通機関相互の連携】

- ▶交通機関同士の競争から共存に向かって形を変えていくことが必要
- ▶相互補完によりトータルで増客を図るための議論が重要
- ▶様々な公共交通機関の分担のあり方、組み合わせを考えることも必要

【地域公共交通のあり方】

- ▶新幹線、LCC、高速道路の整備といったプラスの影響をどう地域に及ぼしていくかという視点も必要
- ▶交流人口を取り込んで、地域交通の利用者数の底上げを図っていくことが必要
- ▶公共交通の利便性向上に向けては交通事業者と行政の連携が必要
- ▶地域の将来ビジョンの実現のために公共交通をどうしていくかを検討すべき
- ▶あれもこれもではなく、何を選択するかを地域社会の負担のあり方と併せて考えることが必要